

部 長 松 永 恒 二 (小牧小)
鈴 木 久 代 (米野小)
研究主任 加 藤 聖 也 (味岡中)
部 員 数 36名

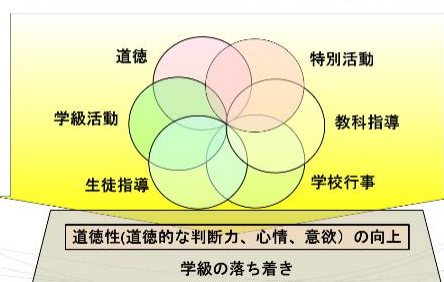
1 研究主題

「自ら考え、よりよい生き方を見つける道徳教育」
～パッケージ型ユニットの実践を通じた気付きからの成長を目指して～

2 はじめに

本研究会では「教育活動全体を通じて道徳教育を行う」という共通理念を大切にしながら研究の実践をし、意見交換を行っている。道徳的諸価値を補充・深化・統合していくために、道徳の時間を要として、他の教育活動と関連させながら行う「パッケージ型ユニット」を計画した。また、昨年度の研究に加え、本年度は、「パッケージ型小ユニット」の中核を担う道徳授業の深まりを目指し、道徳性曲線を使った授業デザインシートを活用した研究実践に取り組んだ。

教育活動全体とつながりながら行う道徳教育



3 研究経過

教育研究会開催日に、道徳の授業実践や道徳の時間以外の道徳的活動などを持ち寄り、提案・協議しつつ研究を進め、それぞれ情報を交換することによって共通理解と連携を図った。話し合いが活発になるように、小中・学年ごとの少人数グループで研究主題について協議・検討した。研究日の開催日は、以下の通りである。

- ① 4 / 23 ② 5 / 14 ③ 6 / 11 ④ 7 / 9 ⑤ 9 / 10
⑥ 10 / 8 ⑦ 11 / 12 ⑧ 12 / 10 ⑨ 1 / 14 ⑩ 2 / 4

4 研究の概要

研究主題に沿った活動として、各部員が「パッケージ型ユニット」を計画、その中核を担う道徳授業の内容や成果と課題の報告をした。ねらいを明確にした系統的な指導をするために、単元全体に関わるテーマを設定した上で、絡める教科、特別活動、行事などを精選して計画し実践をした。また、道徳性曲線を使った授業デザインシートを活用し、授業で取り扱う教材における中心人物の道徳的心情の変化や大きな心情の変化があった場面や葛藤する場面を可視化したグラフから捉え、発問を工夫することで、生徒の道徳的価値の深い理解につながるような授業実践を行った。今年度実践し、意見交換をした「パッケージ型ユニット」・「パッケージ型ユニットの中核を担う道徳授業の実践」の一例を以下に紹介する。

＜中学2年生の実践＞

ア 自律的な集団形成を土台とし、理想の自分を目指して主体的に行動することのできる生徒の育成を目指した「パッケージ型ユニット」(図1)

